

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		<b>Q 建築物の環境品質</b>							<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>					<b>2.9</b>	
<b>1 音環境</b>		<b>3.2</b>	0.15					<b>3.2</b>	
1.1 室内騒音レベル	—	<b>3.0</b>	0.40						
1.2 遮音		<b>3.0</b>	0.40						
1 開口部遮音性能	—	3.0	0.60						
2 界壁遮音性能	—	3.0	0.40						
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	—								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	—								
1.3 吸音	床:タイルカーペット、天井:岩綿吸音板	<b>4.0</b>	0.20						
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.6</b>	0.35					<b>2.6</b>	
2.1 室温制御		<b>3.0</b>	0.50						
1 室温	—	3.0	0.38						
2 外皮性能	—	3.0	0.25						
3 ゾーン別制御性	—	3.0	0.38						
2.2 湿度制御	—	<b>1.0</b>	0.20						
2.3 空調方式	—	3.0	0.30						
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.0</b>	0.25					<b>3.0</b>	
3.1 昼光利用		<b>1.8</b>	0.30						
1 昼光率	—	1.0	0.60						
2 方位別開口	—								
3 昼光利用設備	—	3.0	0.40						
3.2 グレア対策		<b>4.0</b>	0.30						
1 昼光制御	ブラインドにバルコニーや庇でグレア制御	4.0	1.00						
3.3 照度	事務室照度 761.8lx	<b>4.0</b>	0.15						
3.4 照明制御	—	<b>3.0</b>	0.25						
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.3</b>	0.25					<b>3.3</b>	
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.50						
1 化学汚染物質	建築材料は、JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用	4.0	1.00						
4.2 換気		<b>2.3</b>	0.30						
1 換気量	—	3.0	0.33						
2 自然換気性能	—	3.0	0.33						
3 取り入れ外気への配慮	—	1.0	0.33						
4.3 運用管理		<b>3.0</b>	0.20						
1 CO <sub>2</sub> の監視	—	3.0	0.50						
2 喫煙の制御	—	3.0	0.50						
<b>Q2 サービス性能</b>			<b>0.30</b>					<b>3.2</b>	
<b>1 機能性</b>		<b>3.1</b>	0.40					<b>3.1</b>	
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40						
1 広さ・収納性	—	3.0	0.33						
2 高度情報通信設備対応	—	2.0	0.33						
3 パリアフリー計画	最低限のレベルを満たしている	4.0	0.33						
1.2 心理性・快適性		<b>3.0</b>	0.30						
1 広さ感・景観	天井高2.8m	4.0	0.33						
2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペースが執務スペースの3.82%	4.0	0.33						
3 内装計画	—	1.0	0.33						
1.3 維持管理		<b>3.5</b>	0.30						
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い建材を採用している	4.0	0.50						
2 維持管理用機能の確保	—	3.0	0.50						
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.1</b>	0.30					<b>3.1</b>	
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50						
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	—	3.0	0.80						
2 免震・制震・制振性能	—	3.0	0.20						
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.5</b>	0.30						
1 躯体材料の耐用年数	—	3.0	0.20						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	—	2.0	0.20						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	事務室:床 タイルカーペット t6(OAフロア-H50)、壁:ビニルクロス(PB t9.5+t12.5)、天井:岩綿吸音板 t9(PB t9)	5.0	0.10						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外ダクト:ガルバリウム鋼板を採用	4.0	0.10						
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:VLP(B)、排水:VP(B)、通気:VP(A)、Eは不使用	5.0	0.20						
6 主要設備機器の更新必要間隔	—	3.0	0.20						
2.4 信頼性		<b>3.0</b>	0.20						
1 空調・換気設備	—	3.0	0.20						
2 給排水・衛生設備	—	3.0	0.20						
3 電気設備	—	3.0	0.20						
4 機械・配管支持方法	—	3.0	0.20						
5 通信・情報設備	—	3.0	0.20						

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.6</b>	0.30	-	-	<b>3.6</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		基準階 4.0m	5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ		0.1≦「壁長さ比率」<0.3	4.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>		-	<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.4</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性		-	3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		-	3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		ケーブルラック使用	5.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		ケーブルラック使用	5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		-	3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		-	3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.3</b>
1 生物環境の保全と創出		-	<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
2 まちなみ・景観への配慮		-	<b>2.0</b>	0.40	-	-	<b>2.0</b>
3 地域性・アメニティへの配慮			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		-	<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		-	<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.6</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.77	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
2 自然エネルギー利用		-	<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
3 設備システムの高効率化		BEI=0.75	<b>3.5</b>	0.50	-	-	<b>3.5</b>
4 効率的運用			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		-	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		-	3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング		-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制		-	-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.4</b>
1 水資源保護			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1 節水		節水コマに加えて、節水型便器を採用	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		-	3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		-	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			<b>3.3</b>	0.60	-	-	<b>3.3</b>
2.1 材料使用量の削減		-	2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		No.1 LGS仕上 No.3 OAフロア採用	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			<b>3.6</b>	0.20	-	-	<b>3.6</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用		PRTR法に該当しない建材種別が1つある	<b>4.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒		-	3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率82%	<b>3.7</b>	0.33	-	-	<b>3.7</b>
2 地域環境への配慮			<b>2.8</b>	0.33	-	-	<b>2.8</b>
2.1 大気汚染防止		ガス設備を採用せず、オール電化としている	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		-	<b>2.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.5</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		-	3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		-	1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			<b>2.7</b>	0.33	-	-	<b>2.7</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音		-	3.0	1.00	-	-	
2 振動		-	-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		-	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>1.6</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	1.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	6.0	-	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0	-	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	4.0	-	-	-	1.0	-	1.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	2.0	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0	-	-	-	1.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	7.0	-	-	2.0	1.0	1.0	-	-	-	-	1.0	2.0	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	3.0	-	1.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

**主な指標**

<b>Q1 室内環境</b>	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - η AC - η AH -
3.1.1 昼光率	昼光率 0.0%
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 0.0%
<b>Q2 サービス性能</b>	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース - /人 病床 - /床 シングル - ツイン -
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 0.0 VA/m <sup>2</sup>
1.2.1 広さ感・景観	天井高 2.8 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース - レストスペース -
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 0 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 15 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 20 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 4.0m m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 20.0%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 - N/m <sup>2</sup>
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 18% 建物緑化指数 0%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 68% 水平投影面積率 10% 地表面対策面積率 16% 舗装面積率 8%
<b>LR1 エネルギー</b>	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI <sub>m</sub> 0.77 断熱等性能等級 等級2 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 - MJ/年m <sup>2</sup> 採光を満たす教室数 - 採光を満たす住戸数 - 通風を満たす教室数 - 通風を満たす住戸数 -
3 設備システムの高効率化	BPI/BPI <sub>m</sub> 非住宅 0.75 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 ビニル床シート エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 -
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 3
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -
<b>LR3 敷地外環境</b>	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 70% 隣棟間隔指標Rw 0.23 地表面対策面積率 24.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0% 見付面積Sb 818m <sup>2</sup> 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 81.62 m 基準高さHb 14.43 m 緑地 280m <sup>2</sup> 水面 m <sup>2</sup> 保水性対策面 m <sup>2</sup> 高反射対策面 m <sup>2</sup> 再帰性反射対策面 m <sup>2</sup>